



actorial Experiments

$\textcircled{n} \rightarrow A$

$\textcircled{n} \rightarrow K$

$\textcircled{n} \rightarrow N$

$\textcircled{n} \rightarrow Y$

台風のエエ

長島藍水

雨と風の音で、目が覚めました。

昨夜は風が気持ちよかったので、窓を開けて眠りました。
なので、窓ぎわにおいた机がすっかり濡れてしまいました。
部屋の電気を消して、目をつぶってみても、なかなか眠れない夜でした。

久しぶりに羊でも数えよう。
まぶたの中に草原を描き、柵をひとつ立てる。
さっそく羊が一匹現れました。

眠れないのならば、
無理に眠らなくても良いじゃないか。

その羊は理屈っぽくしゃべり始めました。

歩きながら考え事をしたり、食べながら会話をしたりする事は出来る、
けれど、眠っている間は眠る事だけしか出来ない。
それに眠っても、お腹がいっぱいになるわけでもなければ、問題が解決するわけでもない。君の年にもなれば、いくら寝たところで成長の助けになるわけでもない。
せいぜい、疲れを取るくらいしか良いことはないけれど、自然に眠れないということ、君はたいして疲れているわけではない のだろう。
何の意味もない。時間の無駄だ。
なのに、どうして君は眠りたいのかい？

羊はべらべらしゃべり続けて、柵を飛ぶ気配が全くありません。
二匹、三匹とテンポよく数えていかないと、いつまでたっても眠れないのに。
もつとも、眠らせる気もなさそうだけれど。
仕方がないので、わたしは答えてあげました。

夢が見たいから。

現実はとても冷たくて、逃げ出してしまいたくなる。

そして、逃げる場所は夢しかないから。

羊は鼻を鳴らしました。

じゃあ、君は見たい夢を見られるのかい？

いつも、いい夢ばかりを見られる？

夢を操作することは現実をうまく生きてくことよりも、難しいだろう。

それに君は、目覚めたときには夢の内容はあやふやで、夢を見たことすら忘れていることだってあるじゃないか。

眠りへ、夢の世界へと導いてもらうために呼んだのに、この羊はどうあってもわたしを眠らせないつものよう。

けれど、こちら引き下がる訳にはいきません。

わたしには、夢の中でしか会えない人がいる。

まだ、会えたことはないけれど、それでも会いにいくんだ。

何度でも。

わたしは力強くはっきりと、羊に向かって言いました。

羊は言いました。

そうか、わかった。

だったら、会いにいけばいい。

でも、自分で柵を超えて行くんだ。

羊に連れて行ってもらおう、なんて思っちゃいけない。

自分の足で辿り着くほうが、嬉しいだろう？

そこでわかりました。

羊はこの柵を乗り越えるのが怖いのです。それで、一生懸命理屈を並べて、わたしが眠るのを諦めてしまうのを待っていたのです。

なるほど、よく見てみるとその柵は、羊のからだの倍の高さがあり、たくさんの柱で頑丈に出来ています。

わたしは、柵に向かい合いました。
すこし高い、夢へのハードル。
数歩、後ろに下がって、助走。
そして、ジャンプ。
蹴り上げた足は、利き足とは逆になってしまいました。
力が入らない。

見ていた羊が、とっさにわたしを柵の向こうへ押しやりました。

超えた、超えた、だけど、顔面から着地——

今日は台風のようなです。
じめじめした空気、強い向かい風の中、学校に行かなくてはなりません。
きっと、帰る頃には、くたくた。

そんなことを考えているうちに、
今日の夢のことはすっかり忘れてしまいました。

おわり

$\textcircled{n} \rightarrow A$

$\textcircled{n} \rightarrow K$

$\textcircled{n} \rightarrow N$

$\textcircled{n} \rightarrow Y$





The Plashments

気がつけば踊り始めて4年も経ていた。自分もだが奴らもビックリだと思ふよ。東京は渋谷・新宿・幡ヶ谷・下北沢・中野・吉祥寺・八王子・月島・三軒茶屋、それに川崎も行ったな。大体の集合場所は最寄りのフレッシュネス。ライブ前に行けば連絡なしでも会えるよ。大して動きまわるような奴らじゃなかったけど、なんか東京を駆け抜けるような4年間だったな。遊び仲間。

左：Kota (on stage portrait)

Live: Pleasure Beach Vol. 1 at Shibuya O-nest, Tokyo on 7/2/2012

右上：After the Shock

Live at Sangenjaya Heaven's Door, Tokyo on 21/4/2011

右中：TAXI Rendez-vous

After live at Shimokitazawa Yaneura, Tokyo on 12/4/2011

右下：Shoot in the Back Stage

Live at Shimokitazawa Daisy Bar, Tokyo on 21/4/2012





Mate

基本的にバンドばかりだったので、ポートレートはあまりやっておらず、ステージ以外で人を撮ることがなかったです。でもちょっとしたタイミングでカメラを向けられるような、友だち。彼らがいなかったらステージ以外にカメラを向けたかどうか。

左：Sumire

Taken in Koriyama-shi, Fukushima, Japan on 12/6/2011

右上：Hayato

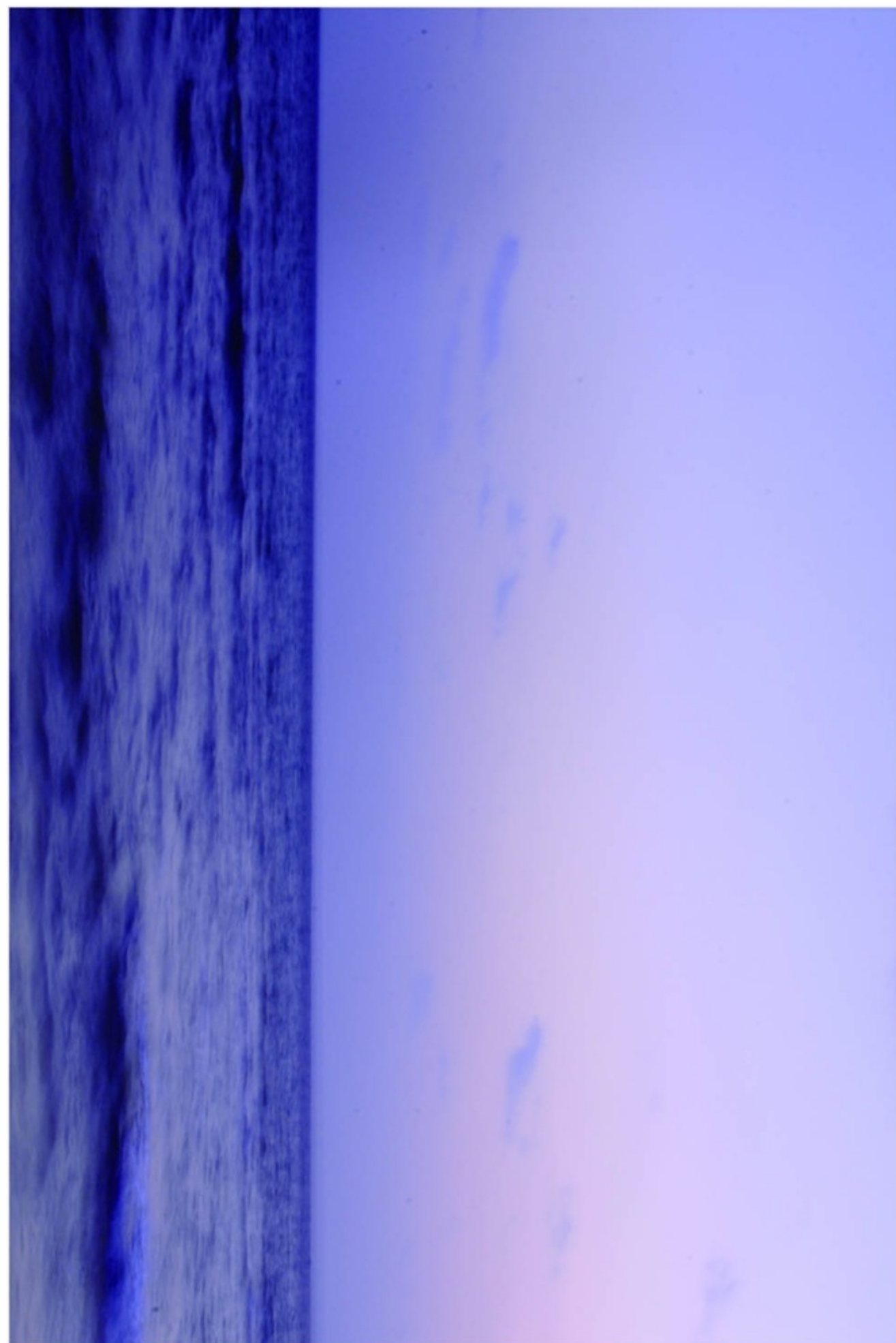
Taken in Onomichi, Hiroshima, Japan on 1/11/2011

右中：Yuma

Taken in a place between Gotanda-Meguro, Toyko on 10/7/2011

右下：Yusaku

Taken in a Bus, Quezon City, the Philippines on 27/8/2010





Beach

学部思い出といえ毎週通った鎌倉高校前駅の浜辺。アパートから原付で30分程度ということもあり、飲み物とスナック、本やカメラを持ってよく出かけた。じっくりと写真を撮るようになったのはここに来てからだと思う。日がな一日座ってるのも悪くはない。

左：Scape of Sea

Taken in Kamakura High School, Kanagawa, Japan on 25/2/2011

右上：A Man

Taken in Kamakura High School, Kanagawa, Japan on 25/2/2011

右中：Kids

Taken in Kamakura High School, Kanagawa, Japan on 25/2/2011

右下：Reflections

Taken in Miura Peninsula, Kanagawa, Japan on 8/1/2011

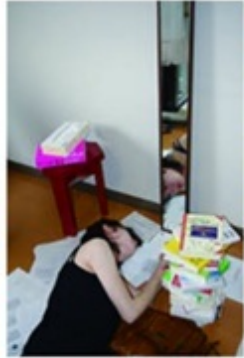
$\textcircled{n} \rightarrow A$

$\textcircled{n} \rightarrow K$

$\textcircled{n} \rightarrow N$

$\textcircled{n} \rightarrow Y$







青白い海 冬の江ノ電 湘南へ
目指すは名古屋
会いたい人の住む街へ
ラジオからは騒々しいミクスとスピーカー
これくらいが丁度良い
リノリウムの冷たい床が懐かす
いっそそのまま寒り換えて 溜池山王
金沢の雪の中 暗夜行路
イヤホンからは静かなワラミック
ボリューム 2つ上げて
海芝浦から真鶴まで
一歩踏んでみて
それが前進でも後退でも停滞でも
構わない
触れなければ価値は無い
全神経を巡らせて脚の裏へ
吸んで
アウフヘーバンのことは今でも
覚えてる 忘れない
東京の月の温度は束縛する

言葉には賞味期限が有る
でもその味はいつまででも残る

「全部喰ったよ」

ほら、どう思う？

$$\textcircled{\textcircled{n}} \rightarrow A$$

$$\textcircled{\textcircled{n}} \rightarrow K$$

$$\textcircled{\textcircled{n}} \rightarrow N$$

$$\textcircled{\textcircled{n}} \rightarrow Y$$



2011; photograph Model: Naomi
Out of Window
 Yokohama, Japan



2012; photograph
Appetite
 New York, U.S.A.



2011; designed by Yuki Takagi, Sewn by Akiko Takagi
A Patchworked Suit
Ishikawa, Japan



2012; pencil and watercolor on coarse paper

Signature

Ishikawa, Japan



Palm



Picking up

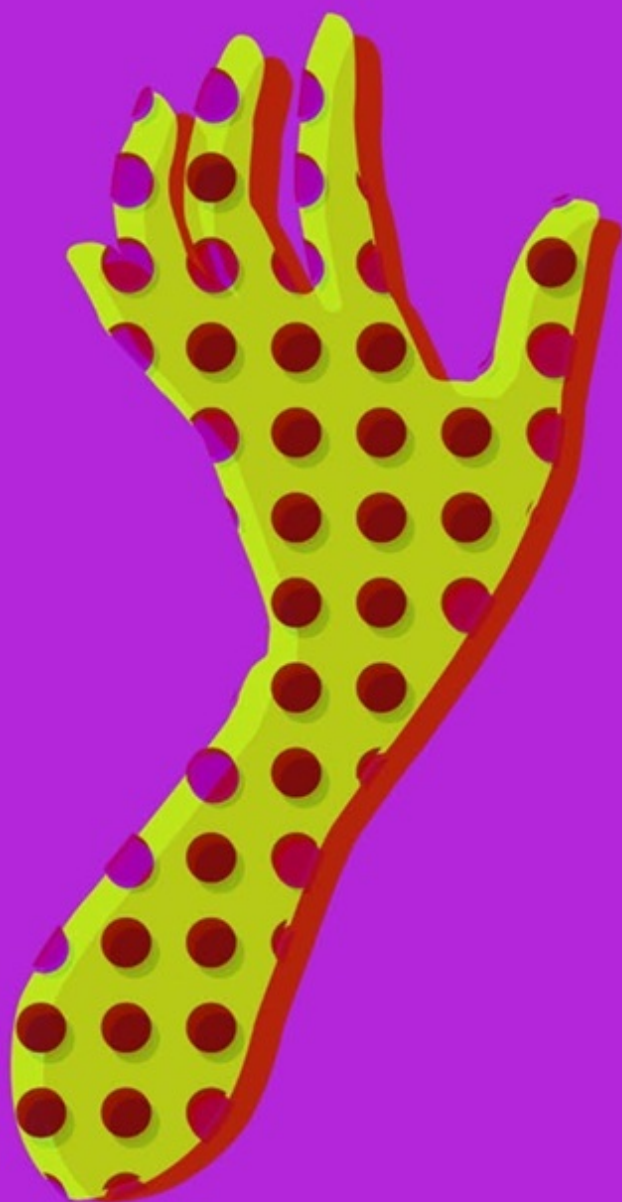


Pledge



Grasp

2012; photoshop CS5 and illustrator CS5
wanna-be 3D hand
Ishikawa, Japan



YOU ARE
MY LIFE



2012; photograph
Show Case
 New York, U.S.A.



2012; photograph
Burger Shop
 New York, U.S.A.



2008; acryl on canvas
Hand Power
Yokohama, Japan



2012; photograph processed by photoshop SC5
Respect W 1, Naomi
Yokohama, Japan



2012; photograph processed by photoshop SC5
Respect W 2
Yokohama, Japan



2011; photograph processed by photoshop CS5, *Respect TL girl* Model: Naomi
Yokohama, Japan



2007; photograph
Morelos Ave. 1
California, U.S.A.



2007; photograph processed by photoshop CS5
Morelos Ave. 2
California, U.S.A.



高木夕貴 (タカギユキ)
1988 年 12 月生まれ。
「Factorial Experiments」発案者。
ナオミをモデルに写真を撮るのが大好き。アイミの書く文章の大ファン。
コーヒーないと生きていけない。
yukism253.blog134.fc2.com



南京緒美 (ミナミナオミ)
1990 年 2 月 13 日東京都葛飾区生まれ、東京都足立区育ち、埼玉県在住。明治学院大学文学部英文学科心理言語学専攻後社会言語学専攻。大学 3 年の夏、様々な出来事に追われるながら自身の 20 歳の記録を残す為モデルを初めて経験する。以後、友人の高木夕貴と共に撮影をする。最近好きなものは twitter、最後に行った活動的な活動は江ノ島での海苔アシスタント。2011 年、熱海真鶴海芝浦橋本成田に日帰りで行くなど地味にアクティブ。移動するのが好き。書き物も好き。
twitter: @omi_tree



竹内海人 (タケウチカイト)
1989 年 7 月 29 日東京都千代田区生まれ、千葉県袖ヶ浦市育ち。明治学院大学国際学部国際学科、専攻は政治社会学。大学入学後、本格的に写真を撮り始める。The Plashments の吉川享太に会い、ライブの写真を作品の中心とするようになる。以後様々なバンドのライブを撮影。写真展は過去に下北沢 ART SPACE や横浜市黄金町など。作品はホームページや Getty Images でみることができる。
www.flickr.com/photos/19890729/



長島藍水 (ナガシマアイミ)
身長はリング 5 個分、体重はリング 3 個分。
ドーナツ 10 個のあとにサンマ定食食べたりする。
Perfume がだいすき。
海外に目が向かず 1 度も日本を出たことがない国際学部生。
子供と動物を見て「可愛い〜」と思えない系女子。
2012 年の目標は「人に優しく接する」。

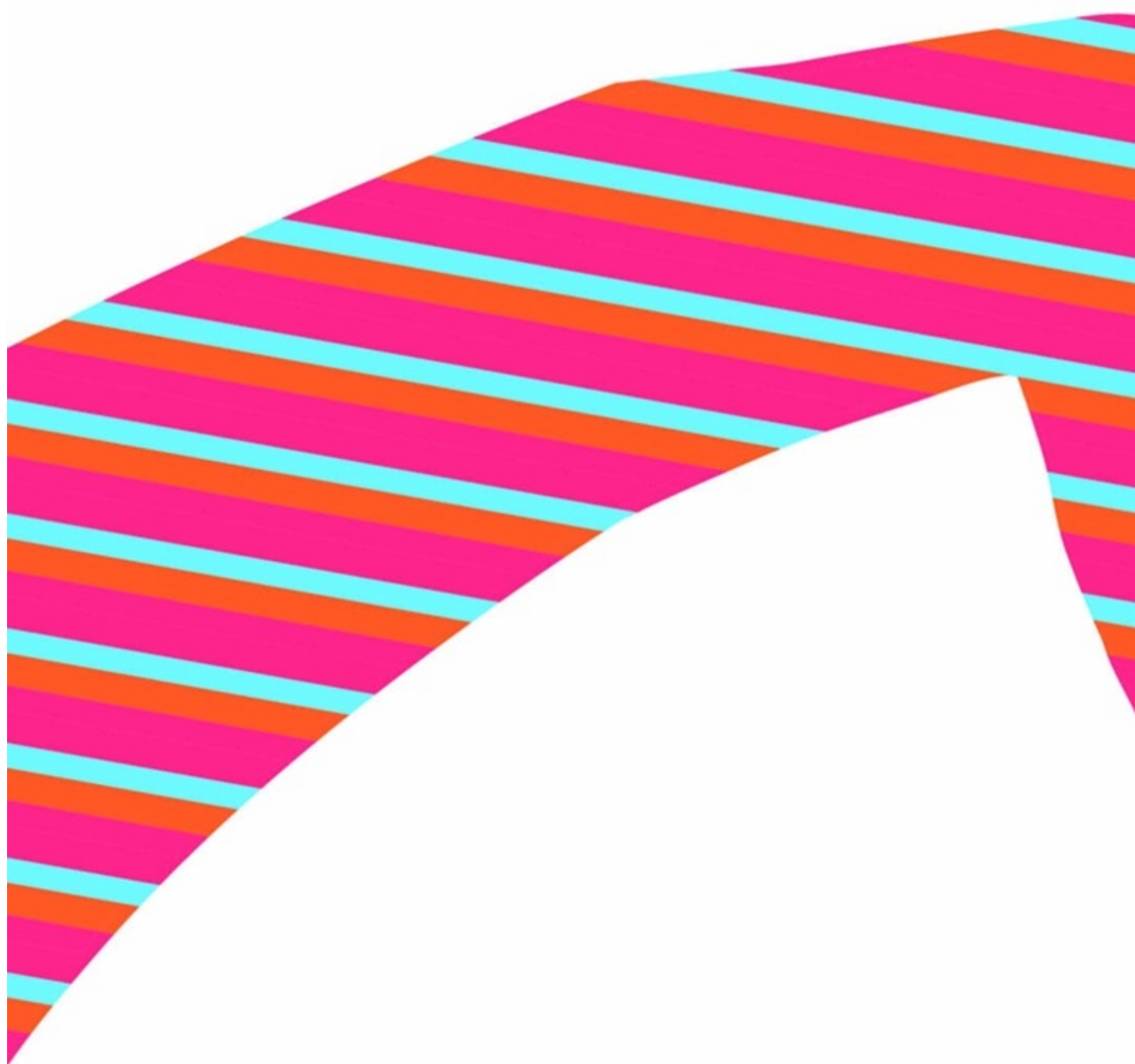
Thank you for everyone who has been supporting us.

Factorial Experiments

Published in 2012 October

Editor-in-Chief:

Yuki Takagi



Factorial Experiments

<http://p.booklog.jp/book/58191>

編者 : yukitakagi99

<http://p.booklog.jp/users/yukitakagi99/profile>

A: ながしま あいみ

K: たけうち かいと

<http://www.flickr.com/photos/19890729>

N: みなみ なおみ

https://twitter.com/omi_tree

Y: たかぎ ゆき

<http://yukism253.blog134.fc2.com/>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/58191>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/58191>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ